

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や手術後の検体、通常の診療で行った処置後の試料（手術前後に留置された外瘻チューブからの胆汁排液）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	オルガノイド技術を基盤とした肝胆膵領域がん研究プラットフォームの開発
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 肝胆膵・乳腺外科 医員 盛田興輔
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 4 月 1 日
対象となる方	2025 年 1 月から 2028 年 4 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち肝胆膵領域の疾患にて外科的切除を受ける、または手術前後に ENBD や PTBD チューブなどの外瘻チューブを留置された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等 (利用する試料) 手術後の検体、通常の診療で行った処置後の試料（手術前後に留置された外瘻チューブからの胆汁排液）
研究の概要 (目的・方法)	<u>肝胆膵領域におけるがんの多くは無症候性であり、進行性及び化学療法抵抗性が強い特徴があります。唯一の根治的な治療は外科的切除であります。診断時に外科的に根治的に切除可能である割合は少なく、切除後の再発率も極めて高い疾患です。本研究の目的は手術検体の病変部より樹立したがんオルガノイド、さらに非病変部より樹立した正常オルガノイドに肝胆膵領域がんで知られる既知のドライバー遺伝子を導入し、作製したがんオルガノイドを用いた肝胆膵領域がん研究プラットフォームを開発することです。また、手術前後に留置</u>

	<u>された ENBD や PTBD チューブなどの外瘻チューブの胆汁排液中の細胞からもオルガノイドを作製します。</u>
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院肝胆膵・乳腺外科 盛田興輔 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327